

⑤Int.Cl.  
B 41 k

⑤日本分類  
116 K 31

⑩日本国特許庁

⑪実用新案出願公告

昭48-7852

## 実用新案公報

④公告 昭和48年(1973) 3月1日

(全3頁)

1

⑤名入日付印

⑪実 願 昭40-34446  
⑫出 願 昭40(1965)5月2日  
⑬考 案 者 森山一雄  
東京都千代田区神田駿河台3の1  
⑭出 願 人 株式会社森山工業所  
同所  
⑮代 理 人 弁理士 南清

### 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すものであつて、第1図は縦断側面図、第2図は印面を示した下面図、第3図は第1図A-A線の縦断面図、第4図は印面を引上げて停止させる構造を示した正面図である。

### 考案の詳細な説明

公知の名入日付印においては、名入印は鮮明に印付することができるが日付印は不明瞭に印付される。本考案はその両方を鮮明に捺印することができる名入日付印を提供すると共に、日付変更の際には日付活字を突設したゴムベルトを名入印面から外筐内に没入状態で支持させることによりゴムベルトの回転による所期日付印の変更を迅速手勝手よくおこなえるように改良したものであつて、その要旨とするところは下面に名入印12を設けた外筐7に可動框4を嵌合して該可動框4をスプリング11により下圧し、可動框4内には数字活字1を具えた複数個のゴムベルト2を可動框4の下端に横設した軸5と送り歯車3とに懸張装置し、上記送り歯車の軸6は外筐7の相対する面に設けた縦方向の長孔8、8から突出させてなる名入日付印において、数字活字1をスプリング11の撥力により外筐7の名入印面から突出させると共に、外筐7の一方の長孔8の上方に斜辺16 35を形成し可動框4内の送り歯車3に横動自在に緩架した軸6の端部を前記長孔8、8から突出させて一端をスプリング13により外方に圧出し、他

2

端には上方に斜辺16と合致する傾斜部14、内側に凹部14'を具えた摘み15を固定した構造にある。

図面に示す実施例につきこの考案を詳細に説明すれば次の通りである。

日付の数字活字1を突出して設けてある数条のゴムベルト2を各別の送り歯車3と可動框4の下方に横架してある軸5とに互り掛張して回転するようになし、該歯車を回転自在に緩架した軸6を可動框4に緩架し、その可動框4を外筐7内に内接容置して軸6の両端方を外筐7の長孔8から突出させ、可動框4の上框から突出させた直杆9の上方を外筐7の上部に横設した支持板10に緩押し、該上框と支持板10との間にスプリング11を捲付してこれが撥力で常に可動框4を外筐7の下方に押圧させて外筐7の下端面に定着してある名入印12の印面より少しく日付配列活字1面を突出させる。そして軸6の一端方にはスプリング13を捲付してこれが撥力で軸6を常に一方に圧出させ、軸6の他端には上方に傾斜部14を設け、内側に凹部14'を具えた摘み15を固定し、長孔8の上端には傾斜部14と合致する傾斜度の斜片16を突出してある。17はカバーである。

本考案は各送り歯車3を回転させてそれに掛張されているゴムベルト2を回転して必要とする数字活字1を名入印12間に配列させるのであるがそれには軸6の一端と摘み15の外端とを第1指と第2指とで挾持し、引上げるときはスプリング11を圧縮し、長孔8にそつて該軸6は上方に移動する。同時に可動框4も共に上昇し、従つてゴムベルト2も上昇する。かくするときは傾斜部14が斜片16に接し斜面にそつて移動せんとするためスプリング13を圧縮し軸6は左動することになり、斜片16は凹部14'にスプリング13の撥力で自動的に嵌合懸止され、その状態で停止し、名入印12の面から突出していた活字1は外筐7内に没入した状態で支持される。かくしてカバー17を除去し、送り歯車3を回転させるとき

3

はゴムベルト2を回転させることができ所期の日付に活字を配列することができる。次に軸6の右端を押しスプリング13を圧縮して摘み15と斜片16との懸止を脱外させるときは可動框およびこれに装架したゴムベルトは所期日付配列のまゝでスプリング11の撥力で圧下され、日付配列活字1は名入印面より突出し復元することになる。かようにしてインクを附着させるため印肉褥に押圧し、或は押印するのである。それには外框7を持ち印面を紙面に押圧すれば、スプリング11を圧縮して可動框4および軸6は長孔8にそつて少しく上昇することになり、名入印面より突出していた部分は没入して活字面と名入印面とは同一平面に含まれることになつてインクを附着し、或は押印することができ、その押圧を放せばスプリング11の撥力で復元する。

本考案は以上の通りであるから、名入印面と配列日付活字面とが常に同一平面にある公知の名入日付印のように配列日付活字面にインクの附着が不充分であつたり、捺印時は名入印面には十分に圧力が加わるが、日付活字面にはスプリングの撥力だけでは十分に圧力が加わらないため日付が不鮮明となることがない。即ち本考案は日付配列面が各入印面より突出しているため、その配列面がインクを附着する場合および捺印の場合、まず目的物に接し、その突出が没入し、しかるのちに名

4

入印面が目的物に接することになるので日付は極めて鮮明に印捺することができる特徴がある。そして日付変更の場合は軸6端にスプリング13と傾斜部14'および14'を具えた摘み15を定設し、長孔8の上端には斜片16を設けたことにより名入印面から突出している配列活字をして外框7内に没入した状態で支持させることができ日付を変更せんとするときにおけるゴムベルト2の回転も自由で日付変更も簡易に行なうことができる等の効果がある。

#### ㊦実用新案登録請求の範囲

下面に名入印12を設けた外框7に可動框4を嵌合して該可動框4をスプリング11により下圧し、可動框4内には数字活字1を具えた複数のゴムベルト2を可動框4の下端に横設した軸5と送り歯車3とに懸張装置し、上記送り歯車の軸6は外框7の相対する面に設けた縦方向の長孔8、8から突出させてなる名入日付印において、数字活字1をスプリング11の撥力により外框7の名入印面から突出させると共に、外框7の一方の長孔8の上方に斜辺16を形成し、可動框4内の送り歯車3に横動自在に緩架した軸6の端部を前記長孔8、8から突出させて一端をスプリング13により外方に圧出し、他端には上方に斜辺16と合致する傾斜部14、内側に凹部14'を具えた摘み15を固定した構造。

